

平成 26 年度事業計画

(平成 26 年 4 月 1 日－平成 27 年 3 月 31 日)

I. 定期学術集会・総会の開催

第 61 回日本実験動物学会総会を下記のとおり開催する。

会 期 : 平成 26 年 5 月 15 日 (木) ～17 日 (土)
会 場 : 札幌コンベンションセンター
会 長 : 安居院 高志 (北海道大学大学院獣医学研究科)
参加者 : 約 1,000 名を予定

II. 通常総会、理事会、理事評議員懇談会の開催

通常総会 (1 回)、理事会 (3 回)、理事評議員懇談会 (1 回) を開催する。

III. 定期刊行物の発行

機関誌「Experimental Animals」および「実験動物ニュース」を下記のとおり発行し、
会員に希望配布する。

発行年月日	巻	号	備考
平成 26 年 4 月 1 日	63	2	
平成 26 年 5 月 1 日	63	サブプレメント号 (電子配信)	
平成 26 年 7 月 1 日	63	3	
平成 26 年 10 月 1 日	63	4	
平成 27 年 1 月 1 日	64	1	

IV. 研究の奨励、業績の表彰

(1) 第 26 回学会賞受賞者を表彰する。

1) 功労賞 (3 名、五十音順)

鍵山 直子 (実験動物中央研究所)

高木 博義 (日本エスエルシー)

土井 邦雄 (東京大学)

2) 安東・田嶋賞 (1 名)

山村 研一 (熊本大学生命資源研究・支援センター)

「遺伝子改変マウスモデルを用いたヒト疾患の病因・病態解析」

3) 奨励賞 (2 名、五十音順)

金子 武人 (京都大学大学院医学研究科附属動物実験施設)

「フリーズドライによるマウス・ラット精子長期保存法の開発と実用化に関する

研究」

小池 智也（神戸大学大学院医学研究科附属動物実験施設）

「WHHLMI ウサギへの冠攣縮誘導による急性冠症候群の誘発」

4) 2013 年 Experimental Animals 最優秀論文賞（1 編）

宮坂勇輝、鈴木沙理、大芝泰弘、渡部 桂、相良嘉彦、安田俊平、松岡邦枝、設楽浩志、米川博通、木南 凌、吉川欣亮

「マウスにおけるカドヘリン 23 の機能欠損 *Cdh23^{v-ugt}* アレルとハイポモルフ *Cdh23^{ahl}* アレルのヘテロ接合体は早発性・加齢性難聴を発症する」

(2) 2013 年日本実験動物学会国際賞の表彰を行う。

2013 年受賞者（9 名）

中国 : Wei Li

台湾 : Li-Tzu Yeh

インド : Prakash Geriyol

インドネシア : R. Suryo Saputro

韓国 : Dongsun Park

マレーシア : Tan Choo Hock

フィリピン : Haidee Liban

シンガポール : Yon Jin Chuah

タイ : Tullayakorn Plengsuriyakarn

(3) 第 27 回日本実験動物学会功労賞、安東・田嶋賞ならびに奨励賞の推薦受付、選考を行う。

(4) 2014 年 Experimental Animals 最優秀論文賞の選考を行う。

(5) 2014 年日本実験動物学会国際賞の選考を行う。

V. 委員会等の活動

下記の委員会および必要なワーキンググループを設置し、それぞれの目的に応じた活動を実施する。

- a. 編集委員会
- b. 学術集会委員会
- c. 財務特別委員会
- d. 国際交流委員会
- e. 広報委員会
- f. 動物福祉・倫理委員会
- g. 定款・細則・規程等検討委員会
- h. 実験動物感染症対策委員会
- i. 教育研修委員会

- j. 実験動物管理者研修制度ワーキンググループ
- k. 動物アレルギー検討ワーキンググループ

VI. 関連学協会との連携

- (1) 日本学術会議、生物科学学会連合及び動物実験関係者連絡協議会の活動に協力する。
- (2) 国内の関連学会・協会との学術・情報交換を進め、その活動に協力する。
- (3) 国際実験動物科学会議 (ICLAS) 及びアジア実験動物学会連合 (AFLAS) における活動を継続する。
- (4) 米国実験動物学会 (AALAS) など、海外関連学協会との学術・情報交流を推進する。
- (5) 公益財団法人実験動物中央研究所 ICLAS モニタリングセンターおよび日本動物実験代替法評価センターの活動に協力する。

VII. その他

- (1) 第 61 回日本実験動物学会総会期間中に委員会主催のシンポジウムおよびセミナーを開催する。(学術集会委員会、動物福祉・倫理委員会、実験動物感染症対策委員会、教育研修委員会)
- (2) 平成 26 年度維持会員懇談会を実施する。(財務特別委員会)
- (3) 第 3 回実験動物科学シンポジウムを開催する。(学術集会委員会)
- (4) 実験動物管理者研修会を実施する。(実験動物管理者研修制度ワーキンググループ)
- (5) Experimental Animals の PubMed Central での全文 XML 公開を実施する。